（別記様式第１２号）（第３の８関係）

（松本地域）

令和５年度　地域発 元気づくり支援金事業総括書

事業名	防災を楽しく学ぶサバイバルキャンプ推進事業
事業主体 （連絡先）	岳都・松本「山岳フォーラム」実行委員会 連絡先：山ゼミ運営事務局　0263-87-3042
事業区分	（４）安全・安心な地域づくりに関する事業
事業タイプ	ソフト
総事業費	5,288,619　円（うち支援金：　4,146,000　円）

事 業 内 容

災害はいつ起こるかわからない中、防災×キャンプをテーマに自助･共助の理解と最低限必要なスキル向上を目的とした体験会を、環境・季節等を変えて開催した。

① 学校避難所体験キャンプ
- 高校生が考える防災キャンプ（7 月 4 日：座学）
  参加人数 15 名及び民間企業関係者 4 名
- 山辺小学校防災デイキャンプ（9 月 2 日）
  参加人数 25 名
- 島内小学校防災デイキャンプ
（9 月 9 日島内地区防災フェスティバルとして開催）
  参加人数約 250 名
- 信大防災キャンプ（10 月 11 日）参加人数 20 名

② 防災キャンプ in 乗鞍（9 月 30 日～10 月 1 日）
  参加人数 54 名

③ 冬期防災キャンプ in 乗鞍（2 月 23 日・25 日）
  参加人数　23 日 21 名　25 日 21 名

④ 冬期におけるシェルターづくり及び水の確保方法を DVD 化し中信地域の小中学校へ配布（64 枚）

【冬期防災キャンプの様子】

【目標・ねらい】

① キャンプ未経験者の掘り起し
② 被災時の自助能力の向上
③ 防災×キャンプの普及
④ 商品造成

事 業 効 果

① アウトドア未経験者にとって被災時の自助活動にアウトドアでの生活体験が重要であることの周知が図られた。
② 公助までの 72 時間で必要な道具や準備すべきことの理解が進んだ。
③ 防災をテーマとした活動が、新たなアウトドア体験機会を提供するきっかけづくりとなった。
④ 冬期におけるイグルーづくりは、大変好評で新たなアクティビティとして商品造成が期待できる。

※自己評価【　B　】

【理由】
・参加者の大多数の声として、体験できたことの評価が高く、有意義な活動であった。
・集客の周知が徹底できず目標とする参加人数に達しなかった。

今後の取り組み

公助としての避難所はもとより、自助・共助のスキル向上は非常に重要な視点であると感じる中、被災時の環境・季節のみならず世代を超えた活動として継続してまいります。

特に本年１月に発生した能登半島地震の状況を勘案すると、非日常化における命をつなぐ活動や命を救う活動は、山岳観光においての非常時とリンクする部分も多く、山岳観光を楽しむ方々のみならず、広く一般の方々へ情報発信する必要性を強く感じます。同時にその人材の育成も含め、山岳観光の商品造成等につなげるべく活動してまいります。

※ 自己評価欄は、地域活性化に及ぼす事業効果について、以下から選択のこと。
「A」：予定を上回る効果が得られた　「B」：予定していた効果が得られた
「C」：一定の事業効果はあったが事業実施方法や今後の活用等について、工夫や改善を要する点がある

（別記様式第１２号）（第３の８関係）